

ヒキオコシ、タマブキ、マツブサ

函館市 酒井 信

道南、特に筆者が最もよく歩く渡島半島南東部に位置する亀田半島に分布する植物の中からいくつかの種について紹介する。狭い地域、周りは海岸で山が迫り、簡単に見られる地域は限られているが、それでも様々な特徴ある植物たちが生育しており観察できる。局地的、あるいは希少な種とともに、比較的普通に見られるにもかかわらず当地周辺以外では見つけにくいのではないかとと思われる種も多々見られる。後者は前者と異なり、花を紹介する様々な記事にもあまり登場しない、地味な、なじみの薄い植物たちと思う。標記の草本2種、および、その他に記載した草本のほとんどは、筆者が初心者の頃、初めて手にした北海道の花の図鑑でさえ掲載されていなかった。それほど、“北海道の花”としてなじみが薄かったのかと思う。本稿では、そのような植物たちの一部を、独断と偏見、お気に入りにより選んで紹介する。局地的な希少種、人気の種などはその存在、各種情報などは見聞きする機会も多

い、あるいは公表は避けるべきとも思われるためここでは取り上げない。標記3種に添付する分布図は、調査したものではなく、植物探索中に気づいた時に記録した、2015年以降のGPSデータである。したがって、確認地の地域による濃淡があることは否めない。

ヒキオコシ *Isodon japonicus*

ヒキオコシは、何の変哲もないシソ科の植物で、枝分かれして小さな花を多数付ける、人の背丈ほどある植物である。函館市誌(宗像 1980)によれば、「上湯川、旭岡、見晴、豊原、亀尾、雁皮平などの丘陵台地の草原植生は当地域の特異な植物景観の一つであったが、戦後の農耕地拡大、宅地造成、道路建設、ゴルフ場建設などにより、現在はほとんど往昔の姿をとどめず、構成要素もわずかに路傍、農耕地の縁辺部、山麓の林端地などに片鱗を残すのみである。その主なるものは…」としてヒキオコシが記載されている。



図1 a ヒキオコシ 函館市 2021.8.28

b ヒキオコシの確認地